

会話では不可算名詞が可算名詞に

難度 1

① A cup of coffee, please.

コーヒー一杯をお願いします。

② A coffee, please.

コーヒー一杯をお願いします。



coffee



a cup of coffee

または
a coffee

③ I'll take two hams and two cheeses.

ハムを2個とチーズ2個をお願いします。

「コーヒー豆」は特定の形を持つ可算名詞として、通常 **coffee beans** と複数形で表されますが、飲み物としての「コーヒー (**coffee**)」自体はどこの部分を切り取ってもコーヒーはコーヒーなので、基本的には不可算名詞扱いの単語です。よって、「一杯のコーヒー」は、**a coffee** とは言えません。カップの中に入った「コーヒー」という意味で、**a cup of coffee** (コーヒー一杯)、**two cups of coffee** (コーヒー二杯) というのが正しい表現となります。

ところが、場面を限定して、カフェやレストランなどでコーヒーと言えば、誰もがソーサーに載せられた「コーヒー入りのカップ」という特定のモノを思い浮かべるために、客は一杯のコーヒーを注文する時には、**A coffee, please.** や **One coffee, please.** と言うことができます。「コーヒー二杯」なら、**Two coffees, please.** と複数形で注文することができます。パブやバーで「ビール一杯」を注文する時も、グラスかジョッキに注がれたビールを思い浮かべて、**One beer, please.** と言うことができます。

He likes ham and cheese. (彼はハムとチーズが好きです) の **ham** と **cheese** は特定の形を持たない不可算名詞としての扱いが一般的ですが、店に陳列されている一塊のハムやチーズを指して、③のように、**two hams** (ハム二個) と **two cheeses** (チーズ二個) と複数形にすることが可能になります。

このように、実際の会話では、できるだけ短く簡単に伝えたいという気

持ちから、文法を無視した表現が使われますが、英語初級者の方はまずは、**a cup of coffee** (コーヒー一杯)、**two cups of coffee** (コーヒー二杯) という基本をしっかりと覚えておくことをお勧めします。

不可算名詞の数え方

不可算名詞には次のような数え方があります。

- ① a glass of water (グラス一杯の水)
- ② a bar of chocolate (一枚の板チョコ)
- ③ a bottle of wine (一ビンのワイン)
- ④ a spoonful of salt (一さじの塩)
- ⑤ a pound of meat (1ポンドの肉)
- ⑥ a loaf of bread (一斤のパン)
- ⑦ a handful of rice (つかみのお米)
- ⑧ a can of beer (一缶のビール)
- ⑨ a lump of sugar (一塊の砂糖、角砂糖一個)

二つの意味を持つ chicken と lemon

難度 1

話がちょっとややこしくなってきたので、整理する意味で、次の四つの英文で、**chicken** と **lemon** の意味を考えてみましょう。

- ① I bought **chicken** at the shop.
- ② I bought **a chicken** at the shop.
- ③ I'd like tea with **a lemon**.
- ④ I'd like tea with **lemon**.

chicken という言葉を聞いた時に、多くの人は「チキン」つまり「鶏肉」をイメージすると思います。中には某ファストフード店のフライドチキンという具体的な形を思い浮かべる人も多いでしょう。しかし、鶏肉はどの部分を切り取ってみても鶏肉は鶏肉で、特定の形を持たない不可算名詞です。よって、不可算名詞扱いの①は「私はその店で鶏肉を買った」となります。一方、②の **a chicken** は可算名詞扱いなので、一羽二羽と数えられる特定の形を

第一文型

「主語+(自)動詞」=「誰が(S)・どうした(V)」

最もシンプルな文型

① I walk.

私は歩きます(私は散歩します)。

② I usually walk to the station.

私は普段は駅まで歩いて行きます。

③ I always walk in the park.

私はいつも公園を散歩します。



S V + 前置詞 or 副詞

「主語+(自)動詞」=「誰が(S)・どうした(V)」という文型で、英語では最もシンプルな英文です。しかし、何の脈絡もなしに、いきなり、**I walk.** と言っただけでは意味を成しません。たとえば、**How do you get to the station?**(駅までどうやって行きますか)の質問の答えとして、**I walk.**(歩いて行きます)と応ずるのは自然でしょう。しかし、**What do you usually do before breakfast?**(普段、朝食前に何をしますか?)の質問の答えとして、単に**I walk.**(散歩します)と応ずるのは日本語で考えてもやや不自然な感があります。このような時には次のように応じるのが自然な表現になります。

④ I go walking every day.

毎日、ウォーキングをします。

⑤ I usually go for a walk in the park.

普段は公園を散歩します。

自動詞で終わる文は、**Let's walk.**(歩いて行こう)、**Look!**(ほら、見て!)、**Listen!**(聴いて!)、**Wait!**(待って!)、**Don't walk.**(歩くな)などのように、命

令文では頻繁に見られますが、一般的に「主語+自動詞」だけで文が完結するのは、まれなケースです。なぜなら、これらの自動詞は物理的な動作や状態を含蓄するため、その動作の方向や場所などを説明する必要があるからです。ここで必要になるのが、動きを加える働きを持つ副詞です。**I walk.**(私は歩きます)の文には、② **walk to the station**(駅まで歩く)や③ **walk in the park**(公園を散歩する)のような情報を加える必要があります。

自動詞→場所→時間

① I walk to the station every day.

私は毎日、駅まで歩いて行きます。

② I walk in the park every morning.

私は毎朝、公園を散歩します。



S V + 場所(どこ)
+ 時間(いつ)

「方向」や「場所」を表す語句の後には、①や②のように、「時間」を表す副詞を続けると、さらに詳しい情報を加えることができます。

このように、英語ではまず「方向」や「場所」を表す副詞を持ってきて、そのあとに「時間」を表す副詞を続けるという語順が普通です。その理由は、物理的な動作や状態を表すことが多い動詞のベクトルは、そもそも「時間」よりも「方向」や「場所」の方へ向いており、動詞との結びつきが強いため、動詞に近い所で表すというわけです。もう一つ理由があります。日本語では住居表示は「東京都台東区」のように、大きいものから小さい順に並べますが、英語では反対に「小さいものから大きいものへ」という原則があります。「場所」が限定されるのに対して、「時間」は場所や空間を超えた大きなものであるため、「場所」→「時間」の順番になるわけです。よって、「50年前、私は東京の浅草に住んでいました」は次のように並べます。

時制

現在の事実、過去、未来を示唆する現在時制 (present tense)

① The sun **rises** in the east.

太陽は東から昇ります。

② One and one **is** two.

1+1は2です。

③ My aunt **lives** in Paris.

私の叔母はパリに住んでいます。

④ She **likes** cats better than dogs.

彼女は犬よりネコの方が好きです。



「現在時制」というと、今という瞬間だけのことと捉えがちですが、実は「現在の出来事も含めて、過去から未来に至る出来事を表す時制」のことで、

①太陽が東から昇ることや、②1 + 1の答えが2であることは、過去から現在も、そしてこれから先の未来も変わらない事実です。これは「不変の真理」などと呼ばれますが、真理を追求する自然科学の世界では、現在形の文は頻繁に見られる表現です。③私の叔母がパリに住んでいることや、④彼女が犬よりもネコの方が好きであるという事実は、今の瞬間だけでなく、過去や未来のことも示唆しています。



時制 (tense) の語源

「時制」の意味の **tense** はイタリア語由来の **tempo** (テンポ、速さ) や、**temporary** (一時的な)、**contemporary** (同時代の)、**temporal** (時間の、現世

の)、**tempest** (大嵐) などと同語源です。**tense** には形容詞で「緊張した」という意味があり、名詞形は **tension** (緊張) ですが、これも根っこの部分では「時制」の **tense** とつながっています。

状態動詞と動作動詞の違い

① Mary **loves** chocolate.

メアリーはチョコレートが大好きです。

② Mary **drinks** hot chocolate every morning.

メアリーは毎朝、ココアを飲みます。

①「～が大好きだ」という意味の **love** は、現在を含めて過去から未来にその気持ちが続いていることを示していますが、このように**同じ状況が続いていることを表す動詞を「状態動詞」と呼びます**。一方、②「～を飲む」という意味の動詞 **drink** のように、**一回で行為が終了してしまう動詞は「動作動詞」と呼びます**。

状態動詞は同じ状況の「継続」を表すのに対して、動作動詞は動作の「完結」を表します。「飲む (**drink**)」という動作をするたびに、その動作が終了することになるので、**drink** を現在形で使うと、その動作が繰り返されることを暗示します。次の挙げる二つの文の動詞も動作動詞です。

習慣的な行為や繰り返される動作

① I always **go for a walk** before breakfast.

私は朝食前にいつも散歩に行きます。

② I usually **get up** at 6 o'clock.

私は普段6時に起きます。



【練習問題 1】正しいものを選びなさい。

- ① **You should avoid (to eat / eating) fatty food.**
脂っこい食べ物は食べるのを避けた方がいいです。
- ② **Have you finished (to eat / eating) lunch yet?**
昼食はもう食べ終わりましたか？
- ③ **I didn't expect (to see / seeing) you here.**
ここであなたに会うとは思っていませんでした。
- ④ **I look forward to (see / seeing) you next time.**
次にお会いすることを楽しみにしています。
- ⑤ **I hope (to see / seeing) you again.**
またお会いできるといいですね。
- ⑥ **He stopped (to smoke / smoking) for his health.**
彼は健康のために禁煙した。
- ⑦ **She agreed (to accept / accepting) my offer.**
彼女は私の申し出を受け入れることに同意した。
- ⑧ **It is no use (to try / trying) to persuade him.**
彼を説得しようとしても無駄です。
- ⑨ **He denied (to steal / stealing) the money.**
彼はそのお金を盗んだことを否定した。
- ⑩ **I'm used to (get / getting) up early.**
私は早起きには慣れています。

【正解】

- ① **eating**
* **avoid ~ing**「～することを避ける」
- ② **eating**
* **finish ~ing**「～し終える」
- ③ **to see**
* **expect to do**「～することを予期する」
- ④ **seeing**
* **look forward to ~ing**「～することを楽しみにする」
- ⑤ **to see**
* **hope to do**「～することを望む」
- ⑥ **smoking**
* **stop ~ing**「～するのをやめる」
- ⑦ **to accept**
* **agree to do**「～することに同意する」
- ⑧ **trying**
* **It is no use ~ing**「～しても無駄だ」
- ⑨ **stealing**
* **deny ~ing**「～したことを否定する」
- ⑩ **getting**
* **be used to ~ing**「～することに慣れている」